



きらりん えがお

令和5年1月20日
平田幼稚園
園長 田中佳江

2023年兔年となりました。皆様、どのようなお正月を迎えられましたでしょうか。新型コロナウイルス感染が始まってから4年目を迎えようとしています。『兎年』を調べると、『これまでの努力が花開き、実り始めること』『飛躍・向上』といったことが書いてありました。このことにあやかり、今年こそは感染症を克服し、明るい日々に向かって、皆が健康でウサギのようにピョンピョン飛躍・向上できる年になることを心から願っております。先日2日間コロナ感染拡大防止のため休園措置をとり、大変ご心配とご迷惑をおかけいたしました。保護者の皆様には、今年も平田幼稚園の教育に対しまして、ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

「ほく、やってみるよ！」

これは、三学期の始業式を行った1月10日の次の日の朝、ある保護者の方から聞いた言葉です。その保護者の方によると、昨日、幼稚園から帰ってきてから、「お母さん、ほく縄跳びやってみる！できなくてもいいんだって。園長先生が頑張ることが大事だって言ってたから、やってみるんだ」ということを言ったそうです。これは、始業式の日にしたことに大いに関係します。実は始業式では、

『もうすぐみんなは小学校へ行ったり、一つお兄さんお姉さんの組になったりするけれど今の生活を十分に楽しみましょう』

『生活習慣を見直しましょう。特に、自分のことは自分でする、挨拶を大きな声で言う、ズックをそろえて靴箱へ入れることをしましょう』

『少し難しいことや、いろいろなことにも挑戦しましょう。頑張ることができるようになることは素晴らしいことだけれど、できなくても一生懸命頑張ったことが大切でステキです』

ということを話しました。みんなそれぞれ何かしら心にとめてくれたとは思いますが、その男児は、「できなくても頑張ることが大事」ということを心で受け止め、「縄跳びに挑戦する」ことにしたのでしょう。その話を聞いて、とても嬉しくなりました。その男児は年中児なのですが、まっすぐに話を聞いて、やわらかい心で自分なりに受け止め、できなくてもいいからとにかく挑戦してみようと、行動したのです。これまでの便りにもいろいろ書いてきたと思うのですが、これから先の人生、自分の努力だけではどうしてもできないことが出てきます。いえ、むしろその方が多いかもしれません。その時にどうするか。「ああ、自分はこんなに頑張ったのにダメだった。自分はなんてダメなんだ・・・」と落ち込むか、「自分はやれるだけの努力はした。今回はうまくいかなかったけれど、ほかに方法があるかもしれないし、この経験は次に必ず生きるはずだ」ととらえるかで、大きく違ってきますね。ポジティブ思考のためには、やはり小さい時からの『トライ＆エラー』が大事です。そして、それを繰り返しながら「こんな自分が好き」と思える自己肯定感を育てていけるよう、私たち大人はサポートしていきたいものです。まわりの人に「困ってるよ」「ちょっと助けて」と言えることも大切ですね。そして、いよいよ進学・進級が近づいてきていますが、「もうすぐ〇〇なんだから・・・」という関わりではなく、今を十分に楽しんで先に進学・進級がある、と思えたらいいなと思います。

「バースディプロジェクト」を開催しました

毎年この時期、年長児とその保護者を対象に、命の大切さを学ぶ良い機会として行っています。11日（水）の午後、県の助産師さん2名、市の保健師さん2名が来園され、年長児全員と希望保護者11名で行いました。まず、助産師さん2名が、「誰にも誕生日があり、それは家族にとってとても嬉しい日であったこと」「赤ちゃんはどうして生まれてくるのか」「お母さんはとても大変な思いをして出産をすること」「生まれた命はみんなに愛されて大きく育っていくこと」などを、紙芝居や出産劇などでわかりやすく教えてくださいました。時には、裸の絵が出てきたり、「赤ちゃんは、お父さんとお母さんから命のもとをもらってできるんだよ」という、幼児期に応じた性教育もありましたが、子ども達はそれはそれは真剣に見たり聞いたりしていました。

その後、保護者の方と助産師さん、保健師さんでの座談会も行いました。2グループになって、子どもが生まれた時のことや疑問に思うこと等、フリートーク形式でしたが、皆さん我が子の出産時の感動を思い出されていたようでした。また、保健師さんから「乳がんの模型」を触らせてもらい、自分の体を大切にする体験もありました。最後に、「子ども達は自分の体について、性について質問してくるかもしれません。その時に「そんなこと聞くもんじゃありません」と言ってしまうと、子どもは「生まれた自分や性に関することがいけないうこと」と思ってしまう。真摯に向き合い、わかりやすく教えたり、わからなかったら正直に「わからないから調べておくね」でもいいと思う。その向き合い方が思春期に大きな影響を与えることがある」と言われた助産師さんの言葉が、胸に響いています。

